

他下対のためには戦はねばならぬ。

2. 下からの統一戦線戦術の大膽な執拗な遂行を以てする全労及対派の全国的再組織。

3. 失業者委員会の地方的組織。

4. カンパニア活動、視察会、労校、茶話会を通じての組織の拡大。

5. 日本労働組合会議、社大党との闘争。

6. 闘士の養成。

7. 農民組合及文化団体との協同。

〔参考〕 九月テーゼ要綱

自己陣営を強化せよ！のスローガンが掲げられ、政名闘争の優位性への偏向修正は叫ばれ、次の三大スローガンの下共同闘争を通じての労働者戦線の合同統一が意図された。

(1) 健康保険法の改正！

(2) 失業保険法の制定！

(3) 労働者戦線の統一！

(2) 斯ら方略の下に闘争したに拘らず、結果として吾等が今日目撃するものは次の諸項である。

(a) 関東に於ける反対派陣営の着しき拡大はなかったが我等の勢力は全労本部派組織中に相当の影響力を持つた。

(b) 統一会議の緊急任務、スローガンの実践に見るべきものなきこと

(c) 滑利たる攻撃精神の萎靡沈衰を見たこと。

四、自己批判

a. 滑利たる攻撃精神の萎靡沈衰を見た原因

1. テーゼが『当為』(なすべき)を抽象的に羅列し、現実の戦場を畫いた具体的攻撃命令でなかった。

b. 統一会議の緊急任務、スローガンの実践に見るべきものなかった原因

1. 自己陣営に内包する意識水準低度の大家をその心臓に於て掴み、これを高度スローガン遂行戦の同伴者たらしめる至急に取り組む計画の
欠除